

どこで どんな事故?

いろいろな場所でケガが発生しています。

家の中で



ものにつまずき転倒



イスからの転落



沸騰中のやかんでやけど



調理中に指を切る



浴槽で溺れる



ドアに指をはさむ



ベランダから転落



もちがのどにつまる



ベッドからの転落



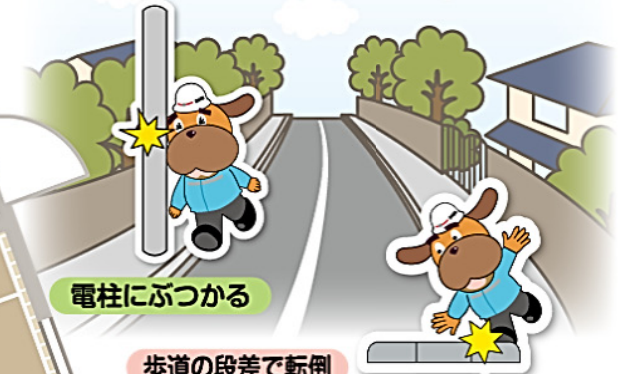
蜂に刺される

駅で



駅ホームからの転落

外で



電柱にぶつかる

歩道の段差で転倒

公園で



スケートボードで転倒

学校で



廊下でぶつかる

意識がない、大量に出血している、今までと様子が違う時などは

119番通報へ





転倒

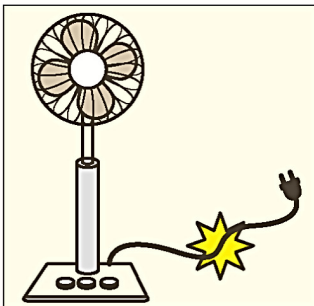
1 こんな時、どのような事故が起きるか想像してみましょう。(危険予知トレーニング)



事故予防のためのチェックリスト

- 電気機器のコードは乱れていませんか。
- タンスの引き出しはしっかり閉じられていますか。
- 床に滑りやすいものが置かれていないですか。

事故例



扇風機のコードで転倒



タンスの引き出しで転倒



床に置いていた洗濯物で転倒

— 転倒は各年代共通して最も多く発生しています。 —

2 主な事故 (実際にあった事例です)

高齢者

- 段差につまずいて転倒し、足を骨折
- 床マットで滑り転倒し、股関節を脱臼
- 駅の点字ブロックにつまずいて転倒し、あごをケガ



大人

- トイレに行こうと暗い部屋を移動中に転倒し、あごをケガ
- 毛糸の靴下を履いていたため床で滑り転倒し、腕を骨折

子ども

- 水に濡れた廊下で足を滑らせて転倒し、頭をぶつけた
- スケートボードをしていて転倒し、頭をぶつけた



乳幼児

- 床に置いていた毛布で足を滑らせて転倒し、頭をぶつけた
- 床に落ちていたビニール袋で足を滑らせて転倒し、頭をぶつけた
- 駐車場を歩行中に車輪止めにつまずいて転倒し、頭をぶつけた



3 事故予防対策

部屋を明るく

行動するときには部屋を明るくしましょう。



滑らない対策

手すりを設置しましょう。また、スリッパや靴下は滑りにくいものを履きましょう。



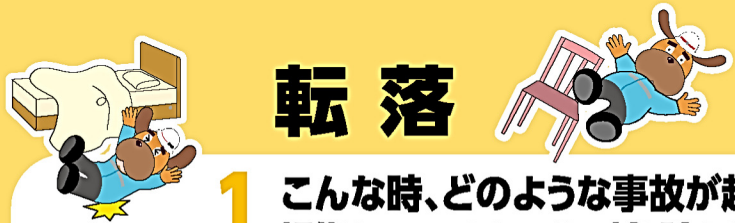
整理整頓

部屋の整理整頓を心がけましょう。



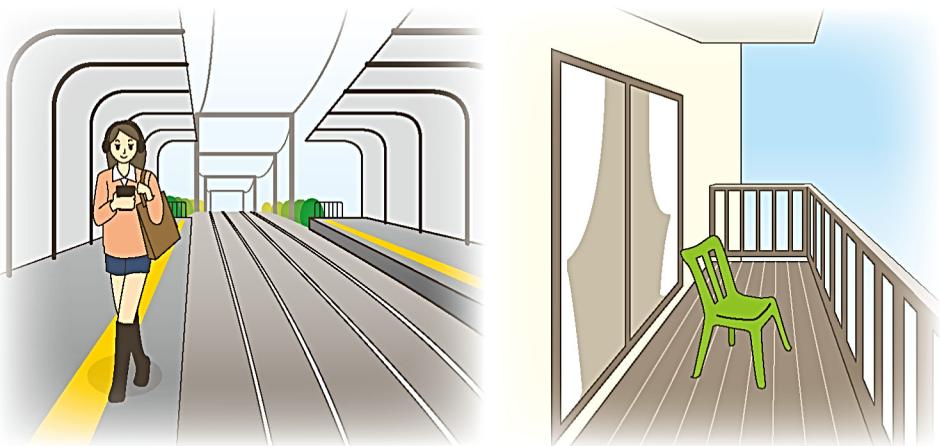
高齢者では、入院するような大ケガになることもあります。普段から部屋の整理整頓などを心がけ、事故防止に努めましょう。





転落

1 こんな時、どのような事故が起きるか想像してみましょう。(危険予知トレーニング)



事故予防のためのチェックリスト

- 人通りの多い場所では周りに注意しながら通行していますか。
- ベランダに子どもが上れるようなものを置いていませんか。

事故例



携帯電話を操作しながら歩行中にぶつかり線路に転落



ベランダの椅子に上りバランスを崩して転落

— 転落は各年代で多く発生しています。 —

2 主な事故 (実際にあった事例です)

高齢者

- 階段の上から転落し、全身をケガ
- 椅子の上で電球の交換をしていて、バランスを崩して転落し、頭をケガ
- トイレに行こうとして、ベッドから転落し、腕を骨折



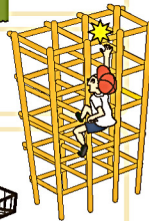
大人

- 屋上で洗濯物を取り込んでいて、飛ばされた洋服をつかんだ際に転落し、骨盤を骨折
- お酒に酔って駅のホームから転落し、頭をケガ



子ども

- ジャングルジムから転落し、頭をケガ



乳幼児

- 浴槽のふたの上に置いたベビーバスごと転落し、頭をケガ
- 自転車の補助席から転落し、頭をケガ
- 買物カートの座席から立ち上がり転落し、頭をケガ



3 事故予防対策

ゆっくりと行動する

姿勢を変える時などは慌てずにゆっくりと行動しましょう。



バランスの悪いものには上らない

椅子の上立つとバランスを崩しやすいので上らないようにしましょう。



小さなお子さんから目を離さない

子どもの行動には注意しましょう。また、自転車に乗せるときはヘルメットをかぶらせましょう。



手すりの設置

階段に手すりを設置しましょう。





ぶつかる



1 こんな時、どのような事故が起きるか想像してみましょう。(危険予知トレーニング)



事故予防のためのチェックリスト

- 人通りの多い道路では周りに注意しながら通行していますか。
- 公園で遊んでいる時も周りに注意していますか。

事故例



話しながら歩行中に人や電柱にぶつかる



滑り台の下にいた人とぶつかる



ブランコの前を通過した人とぶつかる

— 「ぶつかる」は大人と子どもと乳幼児で多く発生しています。 —

2 主な事故 (実際にあった事例です)

高齢者

- 半開きのドアに気付かず頭をぶつけ、額をケガ



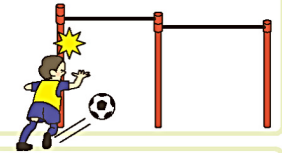
大人

- 駅の階段を降りてきた乗客とぶつかり、顔をケガ
- 飲酒后、帰宅途中に電柱にぶつかり、顔をケガ
- 踏切を横断中、降りてきた遮断機にぶつかり、額をケガ



子ども

- テレビ台に額をぶつけ、頭をケガ
- 鉄棒に気付かずぶつかり、まぶたをケガ
- 廊下を走っていてガラスのドアにぶつかり、腕をケガ



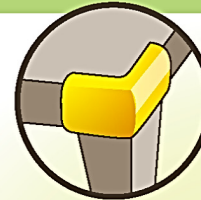
乳幼児

- 頭部をテーブルの角にぶつけ、出血



3 事故予防対策

家具の配置



家具はぶつかる危険のある場所を避けた配置を心がけましょう。また、家具のとがった部分にはクッションを貼りましょう。

家具の固定

家具等を固定しておくことは、地震発生時の家具の転倒、落下防止にも有効です。



周囲に注意

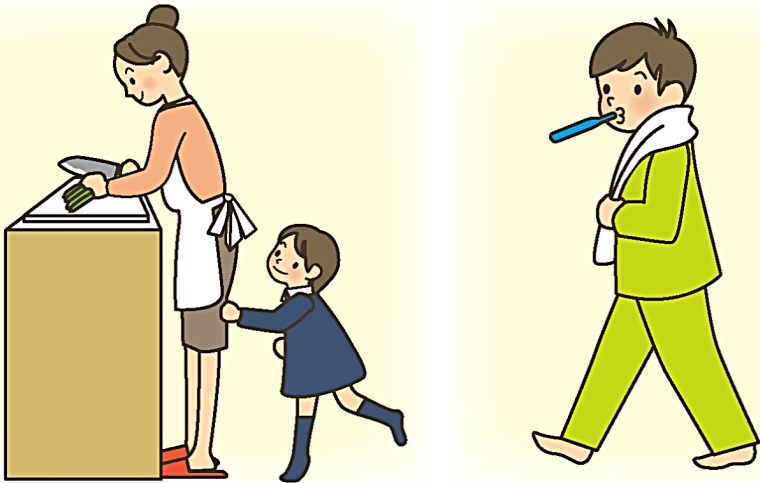
周りに注意して行動するように心がけましょう。また、常に危険と隣り合わせという気持ちを持ちましょう。





切る・刺さる

1 こんな時、どのような事故が起きるか想像してみましょう。(危険予知トレーニング)



— 「切る」「刺さる」は大人と子どもで多く発生しています。 —

2 主な事故 (実際にあった事例です)

高齢者 ○調理中にスライサーで指をケガ



大人

- キャップされていると思い込んで果物ナイフを握り、手をケガ
- フードプロセッサーを清掃中に機械が動き、指をケガ
- 芝刈り中に回転している刃があたり、足をケガ



子ども

- 割れた食器を入れたごみ袋を踏んでしまい、足をケガ
- 工作でカッターを使用中に手をケガ
- 割り箸をくわえながら歩行中に転倒し、口をケガ



乳幼児

- 母親がミシンを使用中に、手を出してしまい、針が手に刺さり、指をケガ



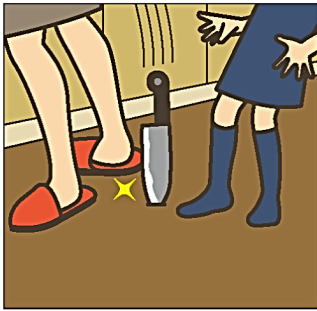
事故予防のためのチェックリスト

- 刃物を扱っている時、小さいお子さんの行動に注意していますか。
- に棒状のものをくわえたまま歩いたりしていませんか。

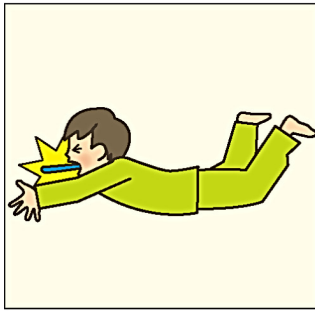
事故例



包丁を持ったまま振り向いたためにケガ



驚いた拍子に包丁を落下させたためにケガ



転倒した際に歯ブラシが刺さる

3 事故予防対策

調理中に注意

普段使い慣れているとはいえ、調理中に刃物を扱う場合は集中して安全に配慮しましょう。



工具の操作に注意



電気工具などでの事故は大ケガにつながりますので取扱説明書を読んで正しく使用しましょう。

周囲に注意

子どもが口に割り箸や歯ブラシなどをくわえて歩行しないように注意しましょう。



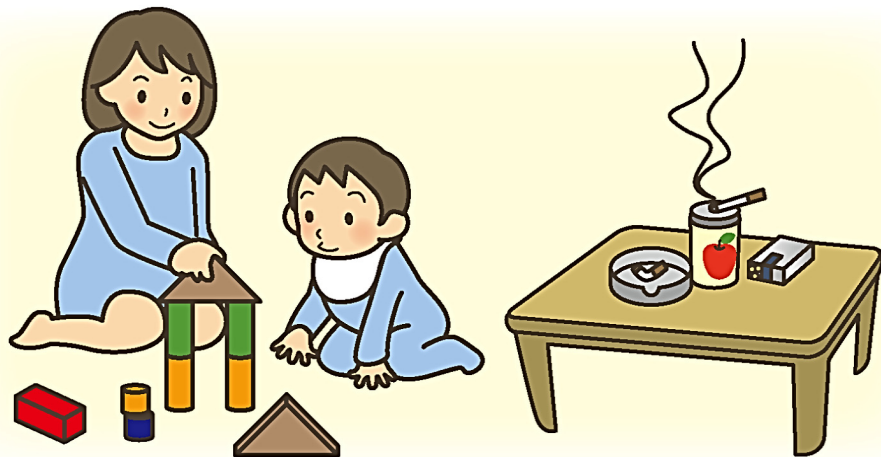
「切る」「刺さる」は出血を伴うことが多いので、止血方法を身につけるように努めましょう。





ものがつまる・誤って飲みこむ

1 こんな時、どのような事故が起きるか想像してみましょう。(危険予知トレーニング)



事故予防のためのチェックリスト

- 子どもが飲み込めそうなおもちゃや文房具などが落ちていませんか。
- 灰皿以外のものを灰皿として使用していませんか。
- 灰皿などは子どもの手の届かない場所に置いていますか。

事故例



積み木を口に入れる



灰皿にしていたジュースの缶の中身を飲む



灰皿のたばこを口に入れる

— 「ものがつまる・誤って飲みこむ」は高齢者と乳幼児で多く発生しています。 —

2 主な事故 (実際にあった事例です)

高齢者

- 食べ物(もち、ゼリー、バナナなど)がのどにつまった
- 薬の包装を誤って飲み込んだ



大人

- もちがのどにつまった



子ども

- おでんの油揚げと一緒に楊枝を飲み込んだ

乳幼児

- おもちゃの部品を鼻に入れて取れなくなった
- 置時計に入っていたボタン電池を飲み込んだ
- 1円玉を飲み込んだ



3 事故予防対策



もちなどは小さめに

食べ物がのどにつまる事故が発生しています。もちなどの、のどにつまりやすいものは小さめに切りましょう。

周囲の方が注意

乳幼児は好奇心で物を飲み込んだり、鼻や耳に入れたりします。周囲の方は日頃から十分注意してください。



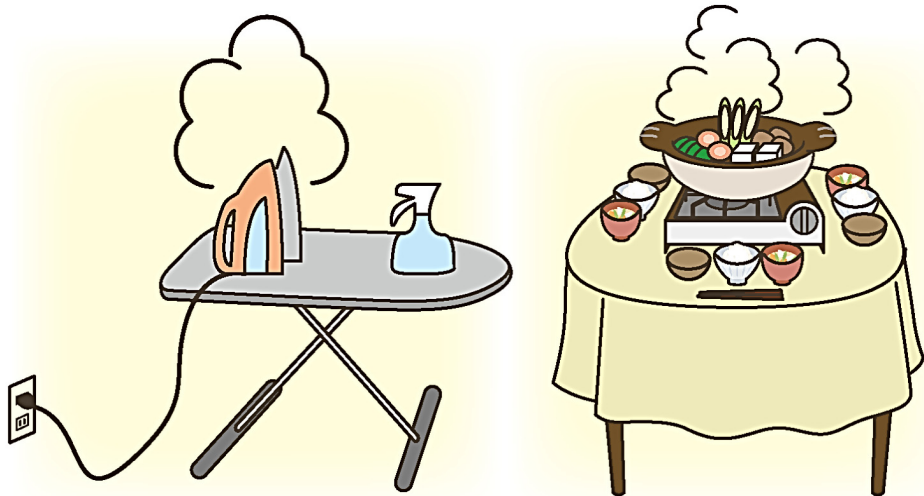
口にもものがつまった場合、窒息し、重大な事故となることがあります。小さいお子さんがいるご家庭では日頃から整理整頓を心がけましょう。





やけど

1 こんな時、どのような事故が起きるか想像してみましょう。(危険予知トレーニング)



事故予防のためのチェックリスト

- アイロンなどからその場を離れる時、電源を切っていますか。
- 食事の際、熱いものは子どもの手の届かないところに置いていますか。

事故例



コードに足が引っかかり
アイロンでやけど



鍋が倒れてやけど

— 「やけど」は乳幼児で多く発生しています。 —

2 主な事故 (実際にあった事例です)

高齢者 ○ラーメンをこぼして、熱湯がかかり、やけど
○電気ストーブに長時間同じ姿勢で暖まり、足をやけど



大人 ○ガスコンロがなかなか着火せず、繰り返していたところ
突然着火し、顔をやけど
○燃焼中のストーブを運搬中に着衣に着火し、やけど



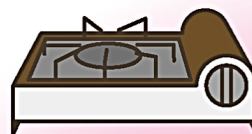
子ども ○ストーブにぶつかり、乗っていたやかんの
熱湯がかかり、腰をやけど



乳幼児 ○テーブルの上に置かれた味噌汁を誤って倒してしまい、
胸をやけど
○石油ファンヒーターの噴出し口に手をかざし、手をやけど
○炊飯器から出ていた蒸気に両手を触れてしまい、手をやけど



3 事故予防対策



ガス・石油器具の取扱い

ガスコンロやストーブは取扱説明書をよく読んで取り扱しましょう。

周囲の方が注意

乳幼児は好奇心で物に触れることがありますので、周囲の方は日頃から十分注意してください。



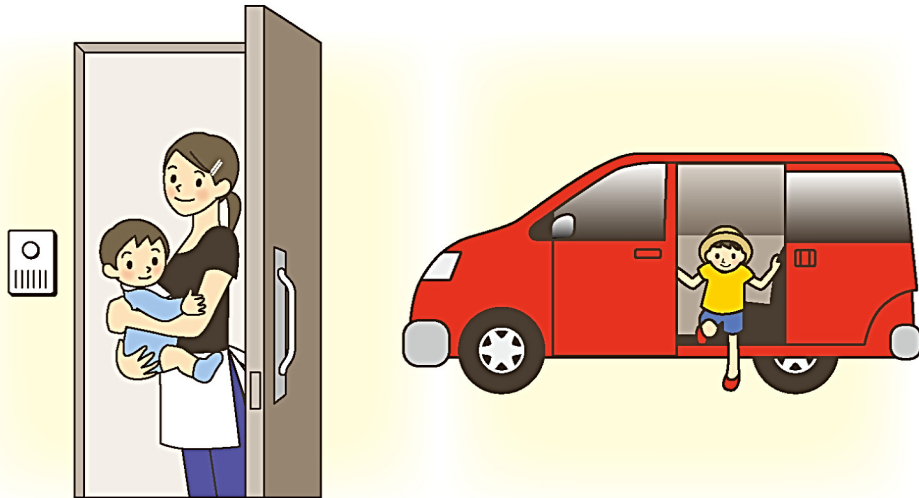
食事時のテーブルには様々な高温の料理が並ぶことがあります。熱いスープなどは、テーブルの中央に置くなど、子どもの手の届かないところに置くことを心がけましょう。





はさまれる

1 こんな時、どのような事故が起きるか想像してみましょう。(危険予知トレーニング)



事故予防のためのチェックリスト

- ドアを閉める際、子どもが手を伸ばしていないか確認していますか。
- 車のドアは周りを見てから閉めていますか。

事故例



ドアが閉まる際に
子どもの手はさまれる



車のドアが閉まる際に
子どもの手はさまれる

— 「はさまれる」は大人と乳幼児で多く発生しています。 —

2 主な事故 (実際にあった事例です)

高齢者 ○店舗の自動ドアにはさまれ、胸をケガ



大人

- 電車とホームの間に足がはさまれ、膝を脱臼
- プレス機に手をはさまれ、手をケガ
- フォークリフトが下がってきて電柱との間にはさまれ、腰の骨を骨折



子ども ○ドアに手をはさまれ、指をケガ

乳幼児

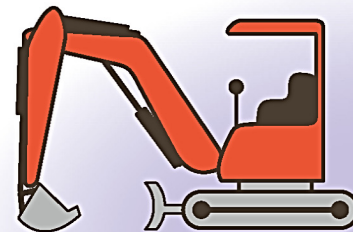
- エレベーターのドアが開いた時に、戸袋に手をはさまれ、指をケガ
- タンスが倒れ下敷きになり、頭をケガ
- 母親がドアを閉めた際に、指をはさまれてケガ



3 事故予防対策

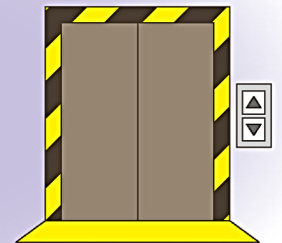
機械にはさまれると重症化

操作方法を知らない人は使用しないことはもちろん、重機等には近寄らないようにしましょう。



周囲の方が注意

ドアの開閉時に子どもがどこにいるのかよく確認しましょう。



小さな子どもの事故は、ドアによるものが多く発生しています。ドアの隙間を保護する製品もありますので、取り付けるのもよいでしょう。





かまれる・刺される

1 こんな時、どのような事故が起きるか想像してみましょう。(危険予知トレーニング)



事故予防のためのチェックリスト

- ペットに触れるときは、飼い主に一声かけていますか。
- 蜂をよく目撃する時期は、洗濯物の取込時に注意していますか。

事故例



手を伸ばしたときに犬にかまれる

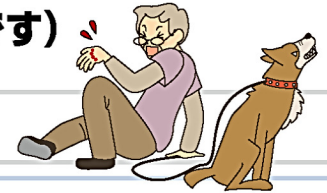


洗濯物の中に入り込んでいた蜂に刺される

— 「かまれる」「刺される」は大人と子どもで多く発生しています。 —

2 主な事故 (実際にあった事例です)

高齢者 ○犬にかまれた



大人

- 洗濯物に入り込んでいた蜂に刺された
- 庭の蜂の巣をたたき落とそうとして、蜂に刺された
- 犬や猫に両手をかまれた

子ども

- 公園で蜂に刺された
- 洗濯物の靴下の中にいた蜂に刺された

乳幼児

- ウサギ小屋に指を入れ、かまれた



3 事故予防対策

動物や蜂に注意

蜂の巣に近寄らないこと、また、夏から秋にかけて、蜂をよく目撃する時期は洗濯物の取込時にも注意しましょう。

アレルギー反応の可能性を知る

人によっては、動物にかまれたり、蜂に刺されたりするとアレルギー反応を起こすことがあるので、より注意が必要です。





溺れる

1 こんな時、どのような事故が起きるか想像してみましょう。(危険予知トレーニング)



事故予防のためのチェックリスト

- 川や海で小さいお子さんを注意してみていますか。
- お酒を飲んだときに川や海に入ったりしていませんか。
- 小さいお子さんが危ない行動をしていないか見えていますか。

事故例



お酒を飲んで川に入り溺れる



浴槽のふたが外れて転落し溺れる

— 「溺れる」は高齢者で多く発生しています。 —

2 主な事故 (実際にあった事例です)

高齢者

- 長風呂を不審に思った家族が浴室を確認すると浴槽に顔が浸かった状態だった



大人

- プールで遊泳中に溺れた
- 川や海で溺れた

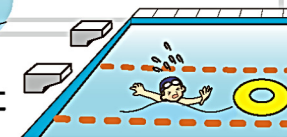
子ども

- プールで溺れた



乳幼児

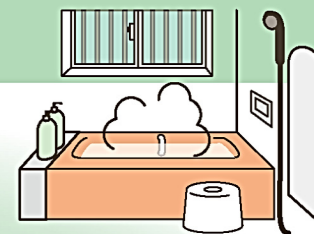
- ベビーバスを使用して背中を洗っている時に顔がお湯に浸かっていた
- 母親が自身の体を洗って目を放した際に浴槽内で溺れた



3 事故予防対策

寒い時期の熱いお風呂

持病のある人は、かかりつけの医師に相談し、入浴時の注意事項を確認しましょう。



小さいお子さんから目を離さない

乳幼児をお風呂に入れる時は、わずかな時間でも目を離さないようにしましょう。また、お風呂に水を張っている時は近づかせないようにしましょう。



ライフジャケット着用

川、海では小さいお子さんにはライフジャケットを必ず着せましょう。

溺れる事故の中で最も多いのは浴槽内で溺れるものです。入浴中は、ひとりであることが多いため、発見が遅れ、重症化しやすくなっています。

